

日本とマダガスカル

貧困問題とハンセン病政策



日時 2014年9月13日(土) 午後3時～5時

会場 ITビジネスプラザ武蔵 6F・ホール2(交流室2) (金沢市武蔵町14番31号)

報告者 井上英夫さん(金沢大学名誉教授)、鈴木静さん(愛媛大学)

アフリカ大陸の東側にある島国、マダガスカル。ここは日本の4倍の面積で、約2,200万人が住んでいます。自然豊かな地で、主食である米は1年で3回もとれるほどです。

今年3月、私たちはマダガスカルを訪問しました。この国の人々の印象を一言でいうなら、「ほこり高きマダガスカル人」です。しかし、現在は暫定政権のもとで、道路、公共事業などの大事なライフライン整備が停滞し、人々のくらしは貧困を極めています。

こうしたなかで、私たちは首都アンタナナリボと地方モロンダヴァの2か所の、ハンセン病療養所へうかがいました。患者の皆さんにもお話をうかがうとともに、病院運営に尽力されている医師、看護師の話をお聞きしてきました。マダガスカルのハンセン病や患者、家族を取り巻く状況は、多面的であり重層的です。医療、ケア物資の不足は大きな課題です。差別状況も様々で、退院して家族のもとへ帰る人もいれば、病気が治っても数十年にわたり療養所に暮らし続けている人もいます。

ハンセン病療養所の現状から、改めてマダガスカルの政治や経済のあり方と貧困の問題が見えてきました。一緒に考えていただけましたら幸いです。

みなさんのご参加をお待ちしています。



主催/医療・福祉問題研究会

920-1192 石川県金沢市角間町 金沢大学地域創造学類社会保障論研究室
ホームページ <http://ihmk.sakura.ne.jp/>